

大学教育学会第48回大会 プログラム

【第1日目】6月6日（土）

9:45～11:15 ラウンドテーブルⅠ

テーブル1 回想の絹川正吉先生

会 場 : AW402

企画者 : 吉永契一郎（金沢大学）、寺崎昌男（東京大学・立教大学・桜美林大学 名誉教授）、小笠原正明（北海道大学 名誉教授）、安岡高志（帝京大学）、佐々木一也（立教大学 名誉教授）

趣 旨 : 昨年度、ご逝去された絹川正吉元大学教育学会長は、大綱化以降、学会のみならず、日本の大学教育改革において多大な功績を残されました。今後、日本の大学は、少子化・志願者獲得競争・財政難・AI時代の新たな人材育成という課題に直面し、さらなる変革期に入っています。このラウンドテーブルは、先生の人柄を偲びつつ、後世への遺物について、語り合う場といたします。

テーブル2 保健医療福祉系大学における教養教育の問題（17）－専門職養成教育と学問の矜持－

会 場 : AW403

企画者 : 志水幸（北海道医療大学）、宮本雅央（北海道医療大学）、小関久恵（東北公益文科大学）、遠藤良仁（岩手県立大学）、町田修三（高崎健康福祉大学）、森元拓（東北公益文科大学）、山下匡将（名古屋学院大学）、吉朝加奈（東邦大学）

趣 旨 : 本ラウンドテーブルは、これまで当該分野における教養教育の意義に係る本質論的テーマを主題としてきた。直近では、政策論的課題として浮上した保健医療福祉専門職の共通基礎課程や、近年の教育政策の鍵概念となるローカルな知の位置付けに係る議論の端緒をひらいてきた。この間の議論を通して、高等教育機関における保健医療福祉専門職養成の基本的問題について誤解を恐れず指摘すれば、斯界における「専門職養成教育は、学問としての矜持を保持し得るのか」ということである。この問題は、当該分野における教養教育の意義を改めて問うことにもつながる。今再び、参加者共にこの問題について議論を深めたい。

テーブル3 女子学生のリーダーシップ開発における「集団志向」の再定義－同調圧力とジェンダー規範を超えて－

会 場 : AW404

企画者 : 和栗百恵（福岡女子大学）、岡村利恵（埼玉大学）、山中葵（ジョージメイソン大学）、小山理子（桃山学院大学）

趣 旨 : 近年、米国の大学生リーダーシップ開発教育では、個人主義への批判対抗軸としての集団志向（collective orientation）が広がりを見せている。一方、集団主義社会とされる日本では「空気を読む」が一般的傾向として存在し、とりわけジェンダー規範としての調和や自己主張の抑制を内面化した女子学生間においては、調和志向的同調が起こりやすい。本RTでは、米国のリーダーシップ教育

における集団志向に照らしながら、日本の集団志向に内在する調和志向的同調の構造を可視化し、collective を女子学生リーダーシップ開発における解放的实践として再構築する理論枠組みと実践を参加者と共に議論する。

テーブル4 そのAIの使い方、許せますか？—学生の実態調査に基づく倫理的検討とAI時代の授業課題の設計—

会場： AE452

企画者： 田口真奈（京都大学）、YAN WANXIN（東北大学）、中島平（東北大学）

趣旨： 大学での学習において、生成AIをどこまで／どのように利用させるべきか、教員側には判断の難しさがあり、学生側にも「どこまでが許容されるのか分からない」といった迷いがある。本ラウンドテーブルではまず、学生が生成AIの利用時に抱く葛藤等の認識を含めた利用実態について調査の結果を共有する。次に、学生の利用パターンをもとにした架空のストーリーを提示し、「どこからが倫理的に問題となるのか」を参加者間で討議する。そのうえで、生成AIの利用を前提に学習成果を担保する授業の課題設計を事例として紹介し、授業課題と評価のあり方を参加者とともに具体的に検討する。これによって実際の授業で運用可能な指針と設計知の獲得を目指す。

テーブル5 大学院共通教育の課題と展望

会場： AE453

企画者： 近田政博（神戸大学）、吉田香奈（広島大学）、齋藤芳子（名古屋大学）、長沼祥太郎（九州大学）、竹永啓悟（九州大学）、野瀬健（九州大学）、大山牧子（神戸大学）、葛城浩一（神戸大学）

趣旨： 2000年以後、主要国立大学では各研究科による専門科目の提供とは別に、多様な研究科の学生が横断的に履修することを前提としたカリキュラムを導入している。大学院教育において非専門科目を設けることにはどのような意義があり、カリキュラムにおいてどのような役割を果たしているのだろうか。大学院共通教育はどのような理念のもとに設計されているか、大学院共通教育をどのように開講、運用するのか、大学院共通教育にはどのような課題と可能性が存在するのか、について主要国立大学の事例を検証したい。

テーブル6 IRの過去・現在・未来——IR高度化に向けた理論的・実践的枠組みの構築

会場： AE454

企画者： 森雅生（東京科学大学）、松田岳士（東京都立大学）、高松邦彦（東京科学大学）

趣旨： 本ラウンドテーブルでは、IR（Institutional Research）の高度化に向けた枠組みについて議論する。多くの大学でIR組織の設置から5～7年が経過し、制度の定着が進む一方、質的向上が喫緊の課題である。本発表では3視点から検討する。第一に、国内外のIR関連研究を体系的に整理し概念の変遷を明らかにする。第二に、IR担当者に求められるスキルセットを調査とワークショップの成果をもとに考察し人材育成モデルカリキュラムを提示する。第三に、DXとの関係からAIや形式的知識表現を活用したIRの将来像を論じる。参加者とIRの知的基盤について議論を深めたい。

テーブル7 正規の履修学生以外の学生・院生を組織的に巻き込む授業づくり

会 場 : AC531

企画者 : 田尾周一郎(岡山大学)、田中岳(岡山大学)、室田真男(東京科学大学)、宮浦崇(九州工業大学)、佐藤万知(京都大学)

趣 旨 : 本ラウンドテーブルでは、履修学生以外の学生・院生が授業補助や教員とともに授業を担うような取組を手がかりに、授業をどのように設計しうるのかを検討する。学年や所属、立場の異なる学生が、異なる目的をもちつつ、同一の教室に参集することで、学びのあり方がどのように変化・成長するのかを概観する。その上で、学年や立場の異なる学生を巻き込んだ授業設計の可能性を探る。事例の対象とするのは、岡山大学、東京科学大学、九州工業大学・立命館アジア太平洋大学である。

テーブル8 内部質保証と教学マネジメントにおける学生参画の実質化をいかにするか

会 場 : AC532

企画者 : 荒木俊博(札幌大学)、山咲博昭(奈良女子大学)、齋藤渉(東北学院大学)、白藤康成(京都産業大学)、岩野摩耶(山口大学)、井上一成(神奈川県立保健福祉大学)、堀佑二(獨協大学)

趣 旨 : 近年、大学教育の内部質保証と教学マネジメントの確立が強く求められる中、「学生参画」の重要性が指摘されている。しかし現状は、学生調査への回答や一部の委員会への形式的な参加にとどまる大学も多く、実質的な参画には多くの課題が残されている。本ラウンドテーブルでは、内部質保証システムや教学マネジメントの各サイクルにおいて、学生をどう巻き込み、持続可能な協働体制を築くかを議論する。各大学の先進事例や試行錯誤のプロセスを共有し、教職員と学生が教育の質を向上させるための具体的な方策と、それを支える組織のありかたについて参加者と議論をしたい。

テーブル9 シティズンシップ教育の実践 -自律・共助の視点から-

会 場 : AC533

企画者 : 宮田弘一(静岡産業大学)、児玉英明(岩手県立大学)、阿部勘一(成城大学)

趣 旨 : 本ラウンドテーブルの目的は、社会への適応に重きを置きがちな現在の大学教育に対し、大学教育が担うべき目的の一つである「市民性の涵養」に関する授業実践を報告し、その可能性を議論することにある。企画の背景には、諸外国に比較して若者の社会関与の希薄さが課題となる日本において、大学機関がいかにして市民性を育むかが問われているという問題意識がある。本セッションでは、市民自身を取り巻く問題や公共的課題を所与とせず自らの問題として捉える「自律」と、他者と連携し取り組む「共助」を市民性の軸に据える。これらを踏まえ、これからの大学におけるシティズンシップ教育の在り方を参加者の皆様と模索したい。

テーブル10 大学教育における質的研究の実践知の共有一語りを聴くこと、読み解くこと一

会 場 : AC534

企画者 : 山田嘉徳(関西大学)、河井亨(立命館大学)、新見有紀子(東北大学)、勝又あずさ(立命館大学大学院)

趣 旨 : 大学教育研究において質的研究が増加傾向にある中、学生の語りを聴き、そこから知見を導き出そうとするアプローチへの関心も高まっている。しかし「学生の語りを聴く」「学生の語りを読み解く」とはどういうことなのか。学生は誰に向けて、どのような関係性の中で語るのか。私たちは

その語りをいかに受け止め、何を読み解いていくのか。こうした問いを出発点に、リサーチクエスションの設定、インタビューでの応答、データの分析と解釈の生成に至るまで、学びと成長にまつわる語りとどう向き合ってきたのか、実践的な知見を共有する。その試行錯誤の共有から、質的研究に関心を持つ多様な実践者とともに、研究コミュニティの形成と発展を目指す。

テーブル 1 1 【課題研究】 With, Without, and Beyond Generative AI —生成 AI 時代の大学ライティング教育・支援を展望する—

会 場 : AW507

企画者 : 尹智鉉（中央大学）、本田康二郎（金沢医科大学、非会員）、朱穎嬌（山口大学、非会員）、福山佑樹（関西学院大学）、高橋薫（創価大学）、岩崎千晶（関西大学）

趣 旨 : 本企画は、生成 AI 登場以降の大学ライティング教育・支援を ELSI（倫理的・法的・社会的問題）の観点から多角的に検討することを目的としている。企画は三つの視点を軸に構成される。第一に「生成 AI を使わないライティング教育」、第二に「生成 AI を活用するライティング教育」、第三に「生成 AI の使用可否を超えたその先」である。これら内容について、(1) 哲学、(2) 法学、(3) 教育学の三つの専門的立場から話題提供を行い、フロアとの討論を通じて実践的かつ学際的な議論を展開する。AI 大衆化時代における大学教育のあり方について、ライティング教育・支援の観点を軸に検討し、展望する。

11:30~13:00 ラウンドテーブルⅡ

テーブル 1 2 ESD の現在地—初期展開者の語りからみる『現在の歴史』

会 場 : AW402

企画者 : 河野晋也（奈良教育大学）、後藤田洋介（相愛大学）、近藤順子（京都外国語大学）、福原英信（早稲田大学大学院）、森田育志（大阪公立大学）

趣 旨 : 本研究は、日本の ESD 初期展開者の語りを history of the present として分析することで、ESD の国際性、政策主導起源、既存実践との非連続性といった自明視されてきた理解を歴史化し、ESD を単一の理念ではなく、翻訳・戦略・統治性の交差点として再定位することを目的とする。ESD を history of the present として検証することで、ESD の起源理解、政策化が実践や研究の豊かさを抑圧してきたとする見方、そして ESD を批判する言説が抵抗として機能しているのか、それとも新たな統治の形式として作用しているのかを問い直し、大学教育からの視点で ESD の現在の在り方を再考する。

テーブル 1 3 一般教育の知的遺産を活かす（その 17）—専門教育との関係史を問う—

会 場 : AW403

企画者 : 深野政之（大阪公立大学）、小山悦司（倉敷芸術科学大学）、亀倉正彦（名古屋商科大学）、塩沢一平（二松学舎大学）、井上美香子（福岡女学院大学）、原圭寛（昭和音楽大学・昭和音楽大学短期大学部）、川上陽子（大阪体育大学）

趣 旨：本学会在り方検討委員会（1996 年）では、一般教育学会からの学会名変更にあたって、本学会に「戦後の一般教育課程の功罪や理念を再確認する歴史的責任」があるという認識が示された。これを受け本ラウンドテーブルでは 16 回にわたって教養教育の課題について検証してきた。今回は以下 3 名の会員より、自身の研究と教育実践について話題提供いただき、現在の教育改革の関連から議論していきたい。報告 1：原圭寛会員（昭和音楽大学）「一般教育と専門教育の階層性の構築：アメリカにおける展開と混乱」 報告 2：川上陽子会員（大阪体育大学）「体育系大学における一般教育の制度史的展開に関する一考察」

テーブル 1 4 大学教育は何を目指すのか ―大学・企業・制度の現象から考える

会 場：AW404

企画者：田中智麻（宮城大学）、赤羽早苗（東京科学大学）、工藤潤（中央大学）

趣 旨：近年、教養や汎用的能力の重要性が指摘されているが、その到達目標や評価方法は必ずしも共有されていない。大学では制度や手法の整備が進む一方、学生の変化や成長そのものの扱いは十分に整理されていない。企業研修でも能力不足を補う設計が中心となり、個人が変化していく過程は評価の対象になりにくい。さらに評価制度は測定可能性を重視するため、教育によって生じる人の変化や成長の過程を評価枠組みの中で十分に扱えない。本ラウンドテーブルでは、大学・企業・評価制度に共通する現象を手がかりに、教育が本来扱おうとしている「人の成長」がどのように位置づけられているかを再考し、大学教育の目的を問い直す。

テーブル 1 5 学生エンゲージメントを高めるピアサポート学生の経験とはどのようなものか

会 場：AE452

企画者：中沢正江（京都産業大学）、石井和也（宇都宮大学）、山野洋一（京都産業大学）、千葉美保子（甲南大学）、川面きよ（成城大学）、嶋田みのり（東北学院大学）

趣 旨：現在、多くの大学において大学生活上で支援（援助）を必要としている学生に対し学生同士で手助けを行うピアサポート活動が導入されている。ピアサポート活動は学生エンゲージメントを高めるために効果的であり、サポートをする/される学生双方にとってメリットがあると言われる。一方で大学運営上の期待と結びつけて論じられる傾向もみられる。本 RT では、教職員の期待や制度的な枠組みから一旦距離を取り、実際に活動を行っているピアサポート学生がどのような経験をし、それをどのように自己評価しているのかを探る方法を検討する。具体的には、量的・質的データによる分析事例をそれぞれ一件ずつ話題として提供し、参加者とともに議論したい。

テーブル 1 6 生成 AI 活用に関する学生・教員調査に基づく IR と FD の架橋

会 場：AE453

企画者：阿部真由美（早稲田大学）、鳥居朋子（早稲田大学）、山田寛邦（早稲田大学）、武藤浩子（早稲田大学）、荻野禎之（早稲田大学）、井上史子（早稲田大学）、遠藤健（東京大学）

趣 旨：生成 AI の利活用が急速に広まる中、早稲田大学では、教員と学生を対象とした大規模なアンケート調査を実施した。本ラウンドテーブルでは、同大学の IR 部門と FD 部門が連携し、アンケート調査から生成 AI に関わる結果を報告するとともに、その結果に基づき、生成 AI の利用に関する今後の FD の方向性について論じる。大学の授業や学修において生成 AI がどのように利用されているの

か、教員と学生はそれぞれどのように捉えているのか、それらの背後にはどのような要因があるのかをデータをもとに考察する。これらを踏まえ、IR と FD の連携の可能性やエビデンスに基づく FD の展開をフロアとともに議論する。

テーブル 17 大学におけるアントレプレナーシップ教育の展開～全国的普及と大学内実装をつなぐ課題と方策～

会 場： AE454

企画者： 山田剛史（関西大学）、後藤耀（デロイトトーマツ）、冨田佳奈（東京大学大学院）

趣 旨： 大学におけるアントレプレナーシップ教育の展開をいかに進めるかを検討する。2025 年 3 月には、登壇者が参画する文科省事業の WG が「日本版 EntreComp v1」「アントレ教育ガイド」を公表し、FD・WS、事例共有会、学生向け全国プログラム等を通じて普及を進めてきた。一方、大学内での認知度、制度化・組織化、質保証、大学間ネットワーク形成など課題も多い。本 RT では、後藤氏より全国展開（生成 AI 活用・企業連携・アライアンス）、冨田氏より FD 参加教員調査（量的・質的）に基づく実践者属性および支援ニーズ等、山田より関西大学における組織的展開（正課内外・経済団体との連携）の事例を報告し、今後の展開方策を議論する。

テーブル 18 いかに「学生の学び」を質保証するか―米・豪・韓・日の事例から考える―

会 場： AC531

企画者： 林透（金沢大学）、杉本和弘（東北大学）、大関智史（宮崎大学）、鄭漢模（北海道大学）、野田文香（大学改革支援・学位授与機構）、森利枝（大学改革支援・学位授与機構）、劉文君（東洋大学）

趣 旨： 令和 7 年 2 月に公表された「知の総和」答申を踏まえ、学生の学修成果や成長実感に資する教育の質保証・質向上のあり方が求められています。形骸化が指摘される認証評価制度は、従前の機関別評価から、学生が属する学部等を中心とした評価にシフトしようとしています。過去 2 年間のラウンドテーブルでの議論をさらに発展させながら、米国・豪州・韓国・日本の大学での具体的な事例を取り上げながら、教育の質保証・質向上の取組が学生の学びにどのように寄与しているかについて考えつつ、日本の現状と課題、さらには、今後のあるべき姿についてフロアと意見交換したい。

テーブル 19 学習支援の組織化と教育開発の架橋：学習支援の実践をいかに教育の質向上へ繋げるか

会 場： AC532

企画者： 竹内里実（京都芸術大学）、君島菜菜（大正大学）、山崎めぐみ（創価大学）、木原宏子（創価大学）、御厨まり子（明星大学）

趣 旨： 近年、日本の大学でアドバイジング等の学習支援が導入されつつあるが、多くの大学では教員による個別指導や支援部門の単独活動に留まり、組織的な体制確立には至っていない。結果、個々の支援で得られた学生の学習実態に関する知見が、カリキュラム改善や FD 等の教育開発に活用されにくい現状がある。本ラウンドテーブルでは、学習支援の「組織化」を軸に、個別の実践をいかに大学全体の教育開発へ接続し、高等教育の質向上へ発展させられるか検討する。具体的な実践事例を紹介

介しつつ、学習支援を単なるサービスから組織変革のハブへと再定義し、学生の学びを起点とした大学全体の教育改善がどのようになされるべきか、その展望を共に考えたい。

テーブル 2 0 大学全入時代の学生多様化の状況にどう対応するか

会 場 : AC533

企画者 : 山地弘起（大学入試センター）、倉部史記（追手門学院大学）、杉森公一（北陸大学）、居神浩（神戸国際大学）

趣 旨 : いよいよ大学全入時代に入っている今日、年内入試へのシフトや修学支援の拡充等により、基礎学力の不足や進学先のミスマッチの課題をもつ学生が増加していると推測される。また、通信制高校出身者や精神障害・発達障害のある学生も増加しており、従来以上に多様化した今日の学生に対応するための学修支援体制や高大連携の創意工夫が求められている。そうした問題意識をふまえて、本ラウンドテーブルでは、まず高校での進路指導の現状と課題を整理し、次にある私立大学での学修支援や高大連携の試みを共有した後、キャリア形成支援の観点からの指定討論と、参加者の方々との自由な意見交換を行いたい。

テーブル 2 1 留学・国際共修等における学習者の多様性とその可視化：BEVI による調査を通じて

会 場 : AC534

企画者 : 西谷元（広島大学）、大西好宣（千葉大学）、水松巳奈（東洋大学）

趣 旨 : 日本人学生の海外留学が活発化し、その教育効果を客観的な指標で可視化する試みが進展している。我々は 2024 年の本学会で「学習成果の可視化とその応用」と題した RT を開催し、BEVI 等の活用事例を報告した。前回の立ち見が出るほどの盛況ぶりは、本分野への関心の高さを示した。現在、BEVI の導入校は増え続け、高大接続、リフレクションの活用、AI の活用など、留学の枠を超えた革新的な成果が蓄積されている。本 RT では、西谷・中村編（2026）『留学・国際共修・COIL による学生の変容とその可視化』（広島大学）の著者 3 名による最新報告を軸に、可視化が拓く次なる可能性と今後の課題について深く議論を展開する。

テーブル 2 2 ESD・SDGs 教育の高大接続・連携 ―ユネスコスクール全国調査に見る高校の現状と課題を踏まえて―

会 場 : AE555

企画者 : 小林勝法（文教大学）、松井晋作（桐蔭横浜大学）、出光直樹（横浜市立大学）、飯吉弘子（大阪公立大学）、菅原慶子（桐蔭横浜大学）

趣 旨 : UNESCO が主導する「持続可能な開発のための教育（ESD）」は、現在、世界各国で推進されており、日本においても教育振興基本計画および学習指導要領の重要な柱として位置づけられている。高等教育機関においては、HESD や ESDGs といった概念のもと、国連大学や SDG Academy をはじめとして国際的な実践が展開されている。本テーブルでは、ESD に取り組むユネスコスクールを対象とした全国調査から明らかになった「継続性の脆弱さ」「地域・設置者による機会格差」「成果の社会実装の弱さ」「普通科の没個性化リスク」などの課題を踏まえ、ESD・SDGs 教育の高大接続および連携の在り方について検討を深めたい。

テーブル23 【課題研究】高等教育における生成AI導入の深化（パート2）：制度、倫理、組織基盤

会 場：AW507

企画者：田中一孝（桜美林大学）、斎藤有吾（新潟大学）、平山朋子（藍野大学）、我喜屋まり子（京都大学）、寺田洋一（桜美林大学、非会員）、杉山芳生（藍野大学）、渡邊浩一（福井県立大学）、羽倉尚人（東京都市大学）、澁川幸加（中央大学）、田中孝平（北海道大学）

趣 旨：本ラウンドテーブルは、課題研究「高等教育における生成AI利用のガイドラインに関する研究」に基づき企画される。昨年は生成AI導入の各手法の利点と課題を整理した。継続企画となる今回は、それらの実践を支える倫理的指針、分野別知見、組織基盤に焦点を当てる。アカデミック・インテグリティについての学生の意識を検証するほか、高度な倫理性が求められる医療分野の動向、さらにハーバード大学等の先進事例から国際的な活用指標を概観する。また、事務組織横断的な勉強会とアプリ開発を、先進的なスタッフ・ディベロップメント（SD）の事例として報告する。これらを通じ、高等教育全体としていかにAIと共生すべきかを展望する。

2日目：6月7日（日）

10:00-12:00 自由研究発表 I

部会1 学士課程教育（1）

会 場：AW402

司 会：飯吉弘子（大阪公立大学）、林透（金沢大学）

韓国における女子大学と共学化大学の組織編成に関する比較考察

○石川裕之（京都女子大学）

量から質へ：日本の単位制度改革の歩みと考察

○蔣妍（東京大学）

21世紀アメリカにおける高等教育とデモクラシーの関係に関する研究動向——2001-2025年の文献レビュー

○間篠剛留（日本大学）

レイト・スペシャリゼーションに関する教育、学生支援の国際比較—日本H大学と韓国C大学の事例を中心に—

○鄭漢模（北海道大学）、金基徳（忠南大学校、非会員）、Park Soojung（忠南大学校、非会員）

大学通信教育の転・編入学における単位認定の現状と課題 —スクーリング単位の取り扱いにみる質保証の課題—

○山鹿貴史（小田原短期大学）

部会2 大学院教育

会 場：AW403

司 会：近田政博（神戸大学）、堀井祐介（大阪大学）

大学院生の研究活動および成長を支えるコミュニティの実態

○伏木田稚子（東京都立大学）

「傲慢さ」と「卑屈さ」のあいだ：博士指導における知的謙虚さの概念化

○櫻井勇介（広島大学）

人文社会系大学院修士課程修了者の学びとキャリアー非アカデミックキャリアへの就職者の語りをもとにー

○大野真理子（東北大学）、○二宮祐（群馬大学）、福島由依（早稲田大学）、元濱奈穂子（一橋大学）

博士後期課程における課題解決型プロジェクト科目の実際と高等教育への示唆ー大阪府豊能町と島根県隠岐の島町における取り組み事例からー

○辻田那月（大阪大学）、大谷洋介（大阪大学、非会員）、山崎吾郎（大阪大学、非会員）

部会3 生成AIと教育（1）

会 場：AW404

司 会：澁川幸加（中央大学）、田口真奈（京都大学）

生成AI時代における大学講義内レポートの活用方法ーBRD（当日ブリーフレポート方式）を中心にー

○宇田光（南山大学）

生成AIを活用した概念的学習支援の循環型授業デザインの提案ー理解の診断から再構成までを統合するモデルの構築ー

○小林祐也（愛知淑徳大学）、小林信三（NPO 法人コンソーシアム TIES、非会員）、土持法一（京都情報大学院大学、非会員）、○青木成一郎（京都情報大学院大学・京都大学）

大学生の課題レポート作成における生成AIプロンプトの意図分析

○高見精一郎（日本赤十字豊田看護大学）、森田一三（日本赤十字豊田看護大学、非会員）

生成AIとの対話を活用した作文修正過程における学習プロセスの分析ー自己調整型学習と「認識枠組みの再構成」に着目してー

○齋藤涉（東北学院大学）、松村尚彦（東北学院大学、非会員）、村山貴俊（東北学院大学、非会員）、宋元旭（東北学院大学、非会員）、窪田嵩哉（東北学院大学、非会員）

大学生は生成AIに何を委ねるのか：ライティング課題における学習アプローチの質的検討

○YAN WANXIN（東北大学）、Cui Yiran（山東大学、非会員）、中島平（東北大学）、Chiu Thomas（香港中文大学、非会員）、小嶋秀樹（東北大学、非会員）

部会4 高大接続・入学者選抜（1）

会 場：AE452

司 会：出光直樹（横浜市立大学）、石原朗子（岩手大学）

男女別学教育における女子生徒のキャリア選択～ジェンダーバイアスの影響の検討

○宇田川拓雄（北海道教育大学）、松本美奈（帝京大学、非会員）

進学先選択を方向づけるものは何かー高等教育へのアクセスの異なる4県の高校生調査からー

○石原朗子（岩手大学）、角田智美（茨城キリスト教大学）、千葉真哉（東北学院大学）、○山梨大学（吉田翔太郎）

入試方式と高校での学びの関連の検討—附属高校出身者に着目した分析—

○武藤浩子（早稲田大学）

初年次学生の学業的・社会的適応プロセスの特質—大学の選抜性の違いに着目して—

○田中孝平（北海道大学）、岡田航平（京都大学大学院）

進学先選択を方向づけるものは何か—高等教育へのアクセスの異なる4県の保護者調査から—

○千葉真哉（東北学院大学）、○角田智美（茨城キリスト教大学）、石原朗子（岩手大学）、山梨大学（吉田翔太郎）

部会5 学生支援（1）

会 場：AE453

司 会：岡田有司（東京都立大学）、橋本智也（大阪公立大学）

アライ育成を目的とした教育プログラム「証言的対話」の学習効果・プロセスの質的分析

○入澤充（東京大学大学院）

日本における大学の属性によるDEIの取組の違い

○村上正行（大阪大学）、岡田有司（東京都立大学）、鳥居朋子（早稲田大学）

現代の多様な学生課題に対応する包括的学生支援モデルの構築—ケアとしての教育の実現—

○川越明日香（熊本大学）、矢野香（長崎大学）、三森寧子（東京科学大学）

私立大学における障害のある学生の支援をめぐる変化と政策の影響

○福田由紀子（東京大学大学院）

部会6 教学マネジメント（1）

会 場：AC531

司 会：安田淳一郎（名古屋大学）、山本啓一（北陸大学）

大規模私立大学のパフォーマンス・ガバナンス—中期計画と内部質保証の連携実態を中心に—

○杉本和弘（東北大学）、○山本幸一（明治大学）、○安田淳一郎（名古屋大学）、○川面きよ（成城大学）

学部長による教学マネジメントの認識とその構造——全国学部長・学長調査に基づくマインドセット分析——

○山本啓一（北陸大学）、吉村充功（日本文理大学）、成田秀夫（日本文理大学）

国際認証がもたらす教授法・学修評価・ガバナンスの変容——日本のビジネススクールの事例から——

○伊藤博（名古屋商科大学）、亀倉正彦（名古屋商科大学）

教育改革はいかに実装可能か——構造的制約とアプローチの転換

○田中智麻（宮城大学）

到達可能性の評価としての出席制度：通学リスクと学生評価の非整合

○齊藤絵理子（追手門学院大学）

部会7 初年次教育と学修支援

会 場 : AC532

司 会 : 岩崎千晶(関西大学)、蝶慎一(香川大学)

教室内外を接続する統合的学習経験としての初年次プログラムの国際比較—韓国・台湾の事例に基づく日本への示唆—

○安部有紀子(名古屋大学)、○日暮トモ子(日本大学)、蝶慎一(香川大学)、塚田亜弥子(香川大学、非会員)

高校理科学科「科学と人間生活」を高度化し大学教養科目とする

○林一夫(前・明星大学)

読む力・思考力を育成するための初年次科目の開発

○鈴木道代(創価大学)、○木原宏子(創価大学)、寺本羽衣(創価大学、非会員)、福博充(創価大学、非会員)、○高橋薫(創価大学)

「SA になっていく」を可能にする実践共同体に関する一考察

○勝野喜以子(成蹊大学)、佐藤万知(京都大学)、加藤かおり(国立教育政策研究所)、鈴木学(福岡大学)

部会8 教育方法・教育改善(1)

会 場 : AC533

司 会 : 西野毅朗(京都橘大学)、上田勇仁(帝京大学)

SoTL プロジェクトへの参加者は何時、どのようなきっかけで授業の研究者や開発者になったのか

○安岡高志(帝京大学)、上田勇仁(帝京大学)、駒崎千里(帝京大学)、寛政俊之(帝京大学、非会員)、山下由美子(帝京大学、非会員)、蔡薰婕(帝京大学、非会員)、安部健太(帝京大学、非会員)、横山真衣(帝京大学、非会員)

大学の授業で非認知能力を養うための工夫

○三浦真琴(関西大学)

心理的安全性の変化と授業環境認知および成長実感の変化の関連：低年次 PBL 授業における 3 時点縦断データの検討

○山田剛史(関西大学)、○溝口侑(関西大学)

リーダーシップ教育における自己評価と他者評価の関連性の検証

○上田勇仁(帝京大学)、小山理子(桃山学院大学)、泉谷道子(創価大学)

部会9 教職員の能力開発(1)

会 場 : AC534

司 会 : 山咲博昭(奈良女子大学)、清水栄子(愛媛大学)

エビデンスに基づく授業改善—大学教員の実態調査と FD への示唆—

○井上史子(早稲田大学)、○阿部真由美(早稲田大学)

オープンデータから読み解く日本における FD の実態 —地方大学の「共助構造」とその危うさ—

○原田健太郎(東邦大学)

大学横断・分野横断オンライン相互 FD によるパターン・ランゲージ「授業改善の言葉」の

○神崎秀嗣（秀明大学）、木村修平（立命館大学、非会員）、飯吉透（京都大学、非会員）

学生参画型 FD/SD の実践ー 全学研修会における教職学協働プロセスの展開 ー

○梶浦真琴（京都産業大学）、○山野洋一（京都産業大学）、京都産業大学教育支援研究開発センター（○三田貴・佐藤賢一・杉江芳隆・磯貝瑛里・鷲尾渉）、山内尚子（京都産業大学）

教育専任教員の制度化とサービス化する FD に関する考察

○佐藤万知（京都大学）

部会 10 地域・社会連携と対話的学習

会 場：AE555

司 会：杉原真晃（聖心女子大学）、櫻井典子（新潟大学）

私立大学におけるスポーツを通じた社会貢献の意義ー教職員の語りからみる制度複雑性に着目してー

○梅村美椰子（名古屋大学大学院）

一般教育科目における批判的サービスラーニングの可能性

○杉原真晃（聖心女子大学）

地域を基盤とした学習の地域と大学へのインパクト～地方大学の地域共創プログラム事例の考察～

○櫻井典子（新潟大学）、秦憲志（滋賀県立大学、非会員）、秋吉恵（立命館大学、非会員）、森田恵（明治学院大学、非会員）、奥貫麻紀（立命館大学、非会員）

学生の対話型論証モデルに対する取り組み方の成果による比較

○飯尾健（徳島大学）、三宅元子（名古屋葵大学）

大学キャンパスを活用したスポーツイベント論の効果とその課題 -高齢者 e スポーツ体験会参加者へのインタビュー調査に基づき-

○平岡師玄哉（環太平洋大学）、宇都宮浩司（環太平洋大学、非会員）

部会 11 多文化共生と教育の質的探究

会 場：AW507

司 会：山田嘉徳（関西大学）、赤羽早苗（東京科学大学）

「レイアウト」の環境存在論的記述-生態学的視覚論とオントロジーに基づいて-

○中沢正江（京都産業大学）、足立薫（京都産業大学、非会員）

学生調査に基づく「記憶に残る授業」の分析

○岩野摩耶（山口大学）

防災をテーマとした国際共修ワークショップの実践：SEL と DEI の視点から

○赤羽早苗（東京科学大学）、○榎原実香（東京科学大学）

日本の高等教育における地球市民教育の現状ー清泉女子大学と創価大学の事例・比較ー

○仲井間静香（創価大学文系大学院）

部会 12 学士課程教育（2）

会 場：AW403

司 会：筒井洋一（京都精華大学）、沖清豪（早稲田大学）

理系学生の「学び」に対する自己認識の変化 ―縦断的質的調査による一考察―

○稲垣太一（学校法人金城学院）

大学教育におけるリフレクションの質的変容に関する縦断的検討 ―講義場面からゼミナールへの移行に着目して―

○井上立揮（青山学院大学大学院）

大学院教育への接続を志向した「大学院進学とキャリア選択」授業の実践と分析

○梅田香穂子（熊本大学）

学習志向動機の成人学習者の語りからみる大学のもつ場所的役割の考察

○小林敬（花園大学）、田口真奈（京都大学）

芸術分野における卒業制作・卒業研究

○西野毅朗（京都橘大学）

部会 13 分野横断・越境的学习

会 場：AW404

司 会：斉藤準（帯広畜産大学）、中島夏子（東北工業大学）

分散キャンパス大学における越境型共通教育の設計と学習成果

○吉朝加奈（東邦大学）、原田健太郎（東邦大学）、山口哲生（東邦大学、非会員）、塩野直之（東邦大学、非会員）、千葉康樹（東邦大学、非会員）

分野横断・分野融合の学びの価値とカリキュラム設計を考える教職員向けワークショップの開発と考察

○林透（金沢大学）、○山田寛邦（早稲田大学）、斉藤準（帯広畜産大学）、前田瞬（長崎県立大学）、定松淳（埼玉大学、非会員）

大学間越境学習の設計と学習成果 ―越境学習のレビューを踏まえた GX をテーマとするプログラムについて―

○古賀友樹（桐蔭横浜大学）、溝口侑（関西大学）、菅原慶子（桐蔭横浜大学）、川妻篤史（桐蔭横浜大学）、河本達毅（桐蔭横浜大学）、森朋子（桐蔭横浜大学）

分野横断的な教育設計を支える教育プロセス・フレームワーク（EPFW）の提案 ―学修成果を授業レベルのプロセスへ翻訳する設計思想―

○松井久実（麻布大学）

部会 14 生成 AI と教育（2）

会 場：AE452

司 会：阿部真由美（早稲田大学）、山田勉（大阪大学）

全学向け生成 AI 活用科目の開発と実践―授業デザインと学習成果に関する考察―

○五島譲司（新潟大学）、斎藤有吾（新潟大学）、乾喜一郎（新潟大学、非会員）、山田修司（新潟大学、非会員）、浅賀岳彦（新潟大学、非会員）

概念循環型転移モデルの再構成—生成 AI 時代における専門職教育の転移理論—

○山田勉（大阪大学）

AI 時代の質保証制度設計に関する比較検討：世界の動向と日本の課題

○畠田敏行（大学改革支援・学位授与機構）

生成 AI を共創的パートナーと位置付けた PBL 型講義の実践

○五十嵐美樹（東京都市大学）、○神野健哉（東京都市大学）、佐竹幸信（東京都市大学）、トムガリー（東京都市大学、非会員）

部会 15 高大接続・入学者選抜（2）

会 場：AE453

司 会：山田剛史（関西大学）、田中孝平（北海道大学）

高校時代の学習・進路に関する要因が教養・専門教育における主体的学習態度に与える影響

○岡田有司（東京都立大学）、山田剛史（関西大学）、半澤礼之（北海道教育大学）、家島明彦（大阪大学大学院）

「大学生になる」という経験はどのように意味づけられるのか？—大学3・4年生のリフレクティブな語りの分析—

○岡田航平（京都大学大学院）

専門学校を媒介とする大学編入における学習動機再構築のプロセス：半構造化インタビューによる質的分析

○新里卓（日本外国語専門学校）、立石慎治（筑波大学）

ボードゲームを活用した探究型高大接続プログラム：格差を可視化し、経験する授業実践

○荻谷千尋（金沢大学）

部会 16 学生支援（2）

会 場：AC531

司 会：千葉美保子（甲南大学）、西出崇（奈良女子大学）

アカデミック・アドバイジングの質保証と評価枠組み—インディアナ州3大学を事例として—

○清水栄子（愛媛大学）、○小林忠資（岡山理科大学）、岸岡奈津子（立命館大学）、岸岡洋介（京都外国語大学）、松本清（東京科学大学）、真鍋亮（愛媛大学）

アスリート学生に対する学修支援の課題と実践的取り組みについての考察

○宮嶋恒二（金沢学院短期大学）、李瑾（中京学院大学、非会員）

コロナ禍による大学と学生の変化：小樽商科大学における学生生活実態調査の年度間比較から

○西出崇（奈良女子大学）、田島貴裕（小樽商科大学、非会員）

アカデミック・アドバイザーに求められる専門性—米国のアカデミック・アドバイザーへのインタビュー調査を通じて—

○吉岡香奈（東京大学大学院）

部会 17 教学マネジメント（2）

会 場：AC532

司 会：杉森公一（北陸大学）、杉本和弘（東北大学）

コロナ禍の大学生はその後どうなったか：2020 年大学入学世代の学修成果

○佐藤浩章（東京大学）、○浦田悠（大阪大学）

シラバスの全学的な充実・改善のための教学マネジメント

○浅賀圭祐（岩手大学）

米国における IR の現状と展望－AIR Forum 2025・2026 を手がかりに－

○鈴木拓人（筑波技術大学）、○嶋田敏行（大学改革支援・学位授与機構）

日本語教育実習におけるミクロレベルの内部質保証と共修の成果－学修成果物を通して考える「共通ループリック」－

○春口淳一（大阪産業大学）、○中山英治（大阪産業大学）、○芳中宗一郎（大阪産業大学、非会員）、○岡田慎之介（大阪産業大学、非会員）

高等教育における能力概念の制度化過程－2000 年代以降の政策言説の分析－

○松永歩（神山まると高等専門学校）

部会 18 教育方法・教育改善（2）

会 場：AC533

司 会：川越明日香（熊本大学）、田中岳（岡山大学）

書字データ分析による学びの可視化

○劉卿美（長崎大学）、○橋本優花里（長崎県立大学）、○橋本健夫（西九州大学）

大学における冒険教育を通じた経験学習と学びの好循環

○松尾美香（名古屋市立大学）、○望月雅光（創価大学）

ICE アプローチに基づき設計した大学での反転授業における学習過程の追跡

○青木成一郎（京都情報大学院大学）、○小林信三（コンソーシアム TIES、非会員）、○小林祐也（愛知淑徳大学）、○土持法一（京都情報大学院大学、非会員）

VR 教材を使った教育フィールドワークの可能性について

○西村泰長（関西外国語大学）

部会 19 言語・ライティング教育

会 場：AC534

司 会：小柴和香（四天王寺大学）、杉谷祐美子（青山学院大学）

科学事象の認知の多角化に焦点を当てた科学的英語表現力の醸成

○安村友紀（東京農工大学）

工学系初年次ライティング科目における SA・TA 活用の効果と課題

○中川祐香（大阪産業大学）

国内小学校英語授業実践の海外展開に関する考察－ベトナムにおける絵本読み聞かせ実践を通して－

○小柴和香（四天王寺大学）

英語教育による看護学生の多文化理解の促進：国際理解測定尺度（IUS2000）を用いた学習効果の検討

○小倉咲（東邦大学）、大藤文加（東邦大学、非会員）、吉朝加奈（東邦大学）

部会 20 教職員の能力開発（2）

会 場：AE555

司 会：松本みゆき（名古屋大学）、中島英博（立命館大学）

国立大学事務系管理職は「仕事の意味の揺らぎ」にどのように対応してきたのか ―企業型の制度ロジックが浸透するなかでの役割変化に着目して―

○橋本みの里（公立小松大学）

働きやすさの解像度を上げる ジェネラリスト型大学職員の職場に着目して

○森本悠（京都大学大学院）

大学教員の多様性理解における葛藤と意識構造の解明 ―支援受容感に着目した自由記述の分析と授業観モデルの検討―

○松本みゆき（名古屋大学）、佐藤万知（京都大学）、安部有紀子（名古屋大学）

教育・学修支援の専門職能開発を目的とした履修証明プログラムの実践とその成果 ―履修生及び修了生を対象とした質問紙調査の結果から―

○我妻鉄也（千葉大学）、岡田聡志（千葉大学）、松本暢平（千葉大学）、熊崎由衣（千葉大学、非会員）、高木晃子（千葉大学、非会員）、竹内比呂也（千葉大学）

部会 21 キャリア教育

会 場：AW507

司 会：木村友久（帝京大学）、丸山和昭（名古屋大学）

大学教員になるためにどのような学外経験が必要か

○近田政博（神戸大学）、葛城浩一（神戸大学）、大山牧子（神戸大学）

学部教育におけるビジネスプラン教育と知財教育の実践事例

○木村友久（帝京大学）

インターンシップ改正における構造的制約～産学協働が機能しないメカニズムの分析～

○小嶋紀博（教育雇用事情研究所）

軍事化される大学生の就職支援の実態と親米エリートの育成―米軍統治下沖縄における学生支援の戦略性―

○蝶慎一（香川大学）